

郷愁のまつやま

第三十五回 松山城南高等学校

明治24年にコーネリア・ジャジソン女史と西村清雄が、松山市三番町に創立した「普通夜学会」が前身の松山城南高等学校。キリスト教主義に基づく教育のもと、令和3年には、創立130周年を迎える。(写真提供：松山城南高等学校)

松山城南高等学校の歩み

- 【明治24年】 松山市三番町に「普通夜学会」を創立
- 【明治27年】 松山市永木町に移転し、「松山夜学校」と改称
- 【昭和13年】 「松山夜間中学」と改称
- 【昭和18年】 「松山城南中学校」と改称
- 【昭和23年】 「松山城南高等学校」と改称
- 【昭和57年】 松山市北久米町に校舎移転

宣教師として松山に訪れたコーネリア・ジャジソン女史は夜学校の必要性を説き、西村清雄と共に四国初のキリスト教主義教育による「普通夜学会」を創立。その後、名称を変えながら、昭和26年には全日制高等学校を併設、昭和36年には定時制高等学校が廃止となり、夜学校教育が終わりを告げた。

【労研饅頭と夜学校】

松山の味として親しまれている労研饅頭。中国の饅頭を日本人向けに作ろうと製造技術を学んだ労研饅頭の創業者・竹内成一さんが、昭和6年、「夜学生に学資を」と学徒9名と共に製造を始めた。

創業当時、製造に携わる夜学生たち



松山夜学校奨学会が
労研饅頭工場を設置



戦時下の統制の中でも行われていた礼拝

講堂礼拝堂と本館(永木町時代)



創立90周年を迎えるにあたり、星岡の麓に校舎を移転

【世界中で歌われている 讃美歌466番のはじまり】

毎朝の礼拝、入学式や卒業式などに歌われている讃美歌466番「やまじこえて」。この歌詞は、初代校長・西村清雄がジャジソンの南予伝道協力を終えての帰路、宇和島から法華津峠(宇和町)を越え、松山へ帰る夜道の想いを綴ったものである。



歌碑が立つ法華津峠。
新入生は校外学習で訪れる



資料室にある
西村初代校長
の直筆屏風